

# ArTistic TZフィルム

ドクター・アンド

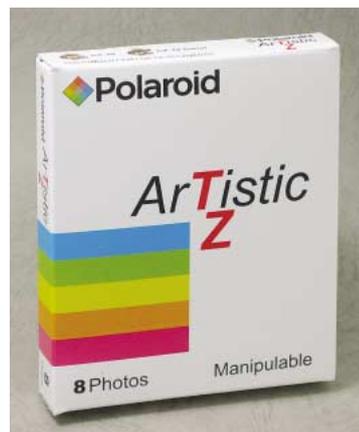
ポラロイド社がSX-70フィルムの販売を終了してから早3年半。また米国ポラロイド社が全ポラロイドフィルムの生産終了案内をしてから間もなく1年。熱狂的なポラロイド・ファンの間ではその再生産を求めて全世界で署名活動が進められている。

そんな折、カリフォルニアのFreestyle社が「ArTistic TZ」なる新フィルムを発売したという報が舞い込んできた。実はこのフィルム、例の「SX-70 BLEND」を企画し全世界で販売したオーストリア・ウィーンのUNVERKAEUFLICH handels GmbH社がやはり企画したもので、同様の契約がなされる予定であったものが、ロイヤリティーの問題などで交渉が暗礁に乗り上げていた。本来交渉が成立するまでは1本たりとも出荷されるべきではないのに、はっきりいってこれは米国ポラロイド社の「つまみ食い」にほかならない。今年の4月にはすでに50,000本生産されていたので、「1日も早く売らねば！」ということで当社もこの「つまみ食い」に便乗させてもらった。

剥離タイプのネガを使用

パッケージを見てまず驚いたのが製品名に「SX-70」という文言がない。未現像のフィルムを分解して見た限りではネガはこげ茶色（T-600のネガは黄土色）。ドクター・アンドが「SX-70 TZのネガそのもの！」

感度：ISO100相当  
フォーマットサイズ：  
10.7 × 8.8 cm  
実画面寸法：7.9 × 7.7 cm  
価格：  
1パック8枚入り ¥3,990  
発売：2008年10月1日  
問合せ：エーパワー  
(04)2923-5234

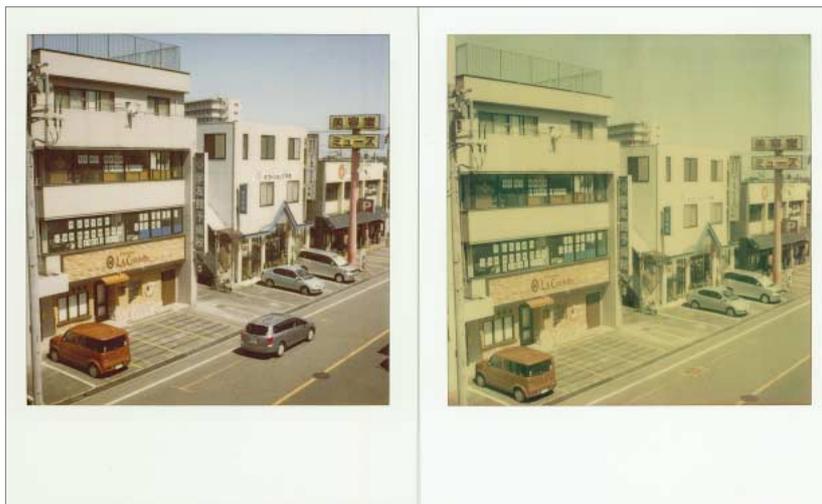


と思ったのもむりからぬこと。だが、SX-70 TZのネガは2004年末ですべて廃棄していたのだった。

それではどうしてSX-70 TZのネガを使わずにSX-70フィルムが作れたのか？ ArTistic TZ新発売のプレスリリースを流した直後、ひょんなことからポラロイド・オランダ工場長のアンドレ・ボスマンから3年ぶりにメールが届いた。彼いわく「P3のネガが50,000本分残っていたのでそれを使った」と。みな「P3とはなんぞや？」と思われるだろうが、これはポラロイドの昔からある剥離タイプのカラーフィルムのネガの開発コードである。P3にはISO80のT-669とISO100

のPC-100（日本での商品名はPC-125）の2バージョンがあるが、後者を流用したそう。よって感度はSX-70 TZのISO150に対し、ISO100。

「ピールアパート（剥離式）のネガをモノシート・フィルムに転用するなど非常識！」が技術者の間では定説であったが、生産再開署名の数が増すごとに「どげんかせんといかん！」との思いが募り、ポラロイド社の倉庫に寝ていたネガの原反を一通り試してみ



㊦ T-600フィルム、㊧ ArTistic TZフィルム

たそうだ。剥離式とモノシート式のネガで決定的な差はなにか？というと、『酸化中和層』と『タイミング層』があるかないかである。

時計を見ながら90秒後に自分で剥く剥離式にはこれが塗っていないのである。よって、この2層をネガではなくポジ側に塗ってみた

そうだ。現像液の調合はSX-70 TZとT-600のレシピとし、酸化中和層の酸のpH値を若干マイルド(弱酸性)にしたところ、かつてのSX-70 TZフィルムと見まごうばかりの発色が得られた。

また、イメージ受像層にはゼラチンを塗布し、イメージ・マニピュレーションを可能とした。

残り物には福がある？

唯一の問題点としては、フィルム両サイドにある『レール』と呼ばれるポリエステル製の細い板(この厚みによってネガ・ポジ間にどれだけの現像液が流れるかが決まる)が前述の2層を塗ったがためにうまく接着できなくなってしまった。そこで、アンドレ工場長以下技術陣は試行錯誤の末、ポジの最下部(ネガに一番近い層)に二酸化ケイ素を塗布することでみごとこの問題をクリア。ただし、このことで現像液が多めに必要になったので、ポッド(現像液が入っている袋)に現像液を200mg余分に充填。その結果、10枚入りだったものが、8枚入りとなってしまった。

さて、「残り物には福がある」というわけで、P3のネガが流用できたのは実に幸運だったが、ポジ・シートと現像液はまったくの新規、それも5万本分しか作れない。これがコスト・アップの主たる要因であるが、はたして1枚500円もするフィルムが売れるのか？ T-600実勢価格の実に2.5倍である。

ユーザーの熱意で

10月1日の発売以降、好調な滑り出しを示したArTistic TZだが、今後の実績はまさにポラロイド・ファン1人1人の熱意にかかっている。消費量が減れば値上げや生産終了は資本主義社会ではあたりまえのこと。デジタルカメラの台頭でボラを使うのを止めたのはユーザー自身だ。それを「生産は止めるな！高い



イメージ・マニピュレーションとは撮影後のフィルムに竹や金属のヘラで写真面をこすり、画像をゆがませたり傷をつけたりすることにより、油絵のような作品に仕上げる手法。ArTistic TZの場合、撮影後1時間から24時間以内で作業をすることが望ましい。協力：Save Polaroid Japan



T-600フィルム(左)とArTistic TZフィルム(右)の展開図。600フィルムのネガは黄土色、ArTistic TZはPC-100のネガ(SX-70 TZフィルムのそれと色も構造もよく似ている)

フィルムは買わない！」ではムシがよすぎる。いまこそポラロイド・オランダ工場の技術者の努力に報いるときがきたのではないだろうか？ 今回の成功でアンドレ工場長は「ピールアパートのネガでモノシートに転用できないネガはない！」と豪語している。つぎなるフィルムが出るも出ないもArTistic TZの実績次第。生産再開署名より効果絶大であること間違いなし！

(ドクター・アンド：株式会社エー・パワー代表、2005年4月銀塩写真文化の保護育成を目指し同社を設立。 <http://www.doctor-and.com>)